

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年 <大阪府（公立）実施校数・児童数 975校 70,277人>
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年 <大阪府（公立）実施校数・生徒数 470校 66,746人>

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校等【国語、算数】
 - ・中学校等【国語、数学、英語】
 - ② 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- ※理科は3年に一度程度の実施のため実施せず

【今年度調査の特徴】

- ※教科に関する調査は、国語、算数、数学に加えて英語（中学校のみ）を4年ぶりに実施
- ※児童生徒質問紙調査については、令和4年度に続き、今年度も一部の学校で、学習用端末を使ったオンラインによる回答方式で実施
- ※紙面で実施する調査の後日実施は、4月19日（水）から4月28日（金）まで可能
- ※英語「話すこと」調査については、当日実施校と期間内実施校があり、期間内実施校については、4月19日（水）から5月26日（金）までの期間で実施

学力調査結果

平均正答率 (%)

小学校

| | 大阪府 | 全国 | 差 | 対全国比 |
|----|------|------|------|-------|
| 国語 | 66.0 | 67.2 | -1.2 | 0.982 |
| 算数 | 62.1 | 62.5 | -0.4 | 0.994 |

中学校

| | 大阪府 | 全国 | 差 | 対全国比 |
|----|------|------|------|-------|
| 国語 | 68.0 | 69.8 | -1.8 | 0.974 |
| 数学 | 49.9 | 51.0 | -1.1 | 0.978 |
| 英語 | 45.3 | 45.6 | -0.3 | 0.993 |

無解答率 (%)

小学校

| | 大阪府 | 全国 | 差 |
|----|-----|-----|-----|
| 国語 | 5.1 | 4.8 | 0.3 |
| 算数 | 3.5 | 3.4 | 0.1 |

中学校

| | 大阪府 | 全国 | 差 |
|----|------|-----|-----|
| 国語 | 5.2 | 4.6 | 0.6 |
| 数学 | 11.0 | 9.6 | 1.4 |
| 英語 | 6.4 | 5.7 | 0.7 |

各教科の状況

○ 小学校国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、学習した漢字を文章の中で正しく使うことや、日常よく使われる敬語などは、概ねできている。
 一方、解答の条件に沿って、グラフや資料から情報を読み取って自分の考えを書いたり、文章を読んで分かったことを書いたりすることに課題がある。

○ 小学校算数

「変化と関係」領域は、概ねできている。特に、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることは、相当数の児童ができています。
 一方、「データの活用」領域では、複数の棒グラフからデータの特徴を捉え、違いを見いだすことに課題が見られる。また、領域に関わらず、理由を明確にして記述することに課題がある。

○ 中学校国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、文脈に即して漢字を正しく書くことや、語句の意味を理解することについては、概ねできている。
 一方、「読むこと」では、文章を比較して表現の効果について考えたり、文章を読んで理解したことと知識や経験とを結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。また、全体を通して、自分の考えを条件に沿って記述することにも課題がある。

○ 中学校数学

「数と式」領域は概ねできている。特に、数と整式の乗法の計算は概ねできている。
 一方、「データの活用」領域における用語の意味を理解することに課題が見られる。また、ある事柄が成り立つことを証明することや、問題解決の方法をグラフや式を用いて説明すること、根拠をもとにして数学的な表現を用いて説明することなど、領域に関わらず、記述することに課題がある。

○ 中学校英語

短い情報を正確に聞き取ることや、目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取ることについては、概ねできている。
 一方、英文を読んで必要な情報を読み取ったり、概要を捉えたりすることに課題がある。また、社会的な話題に関する英文等を読んだうえで、自分の考えやその理由を書いたり、文法事項や言語の働きを理解して正確に書いたりすることにも課題がある。

| 小学校国語 | 学習指導要領の内容 | 平均正答率 (%) | |
|--------------|-----------------|-----------|------|
| | | 大阪 | 全国 |
| 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 71.0 | 71.2 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 62.6 | 63.4 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 70.9 | 72.6 |
| | 書くこと | 24.2 | 26.7 |
| | 読むこと | 69.2 | 71.2 |

| 小学校算数 | 学習指導要領の領域及び評価の観点 | 平均正答率 (%) | |
|-------|------------------|-----------|------|
| | | 大阪 | 全国 |
| 領域 | 数と計算 | 66.8 | 67.3 |
| | 図形 | 48.4 | 48.2 |
| | 変化と関係 | 70.8 | 70.9 |
| | データの活用 | 63.8 | 65.5 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 67.1 | 67.2 |
| | 思考・判断・表現 | 55.7 | 56.5 |

| 中学校国語 | 学習指導要領の内容 | 平均正答率 (%) | |
|--------------|-----------------|-----------|------|
| | | 大阪 | 全国 |
| 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 68.9 | 67.5 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 61.6 | 63.4 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 72.3 | 74.7 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 79.5 | 82.2 |
| | 書くこと | 62.1 | 63.2 |
| | 読むこと | 60.8 | 63.7 |

| 中学校数学 | 学習指導要領の領域及び評価の観点 | 平均正答率 (%) | |
|-------|------------------|-----------|------|
| | | 大阪 | 全国 |
| 領域 | 数と式 | 63.2 | 63.0 |
| | 図形 | 33.4 | 33.2 |
| | 関数 | 49.5 | 51.2 |
| | データの活用 | 45.0 | 48.5 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 55.1 | 55.7 |
| | 思考・判断・表現 | 39.6 | 41.6 |

| 中学校英語 | 学習指導要領の領域及び評価の観点 | 平均正答率 (%) | |
|-------|------------------|-----------|------|
| | | 大阪 | 全国 |
| 領域 | 聞くこと | 57.4 | 58.4 |
| | 読むこと | 50.2 | 51.2 |
| | 話すこと | * | 12.4 |
| | 書くこと | 24.8 | 23.4 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 51.2 | 51.5 |
| | 思考・判断・表現 | 38.7 | 38.8 |

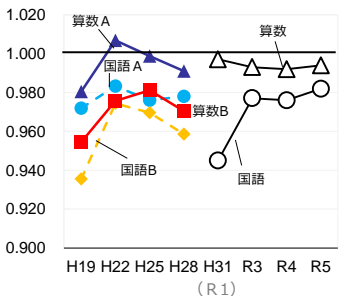
*話すこと調査の結果については、全国から抽出された当日実施校の結果が公表され、都道府県別の結果は公表されません。

【参考】対全国比の経年比較

・対全国比 = 府平均正答率 ÷ 全国平均正答率

・全国の平均正答率を1.000としたときの、大阪府（政令市を含む）の各教科の平均正答率の推移（平成30年までは各教科A・Bの2区分）

小学校



中学校

